

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型福祉事業所 つくしの里 (保育所等訪問支援事業)		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○訪問先施設評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	14施設	(回答数) 12施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各専門のセラピストがアセスメントし支援の提供をしている。本人の特性、発達段階、訪問先の環境に応じて具体的なアドバイスをすることができる。	事前に担当セラピスト、担当医師を交えてのカンファレンスを必要時には実施している。	訪問支援の結果から、訪問先とリハビリ内容を連携することでより充実した支援につなげる努力はしているが、コマ数に限界がある為、何度も訪問することが無理な背景と現状とのバランスが検討課題としている。
2	保育所等訪問を受けることができる利用者は当事業所でリハビリ受診している利用者のみ限定している為、普段のリハビリ訓練、心理でのカウンセリングを通じて保護者との連携は取りやすくわかりやすい状況であると思う。	保護者に訪問支援の事前、事後報告を丁寧にするように意識している。	
3	平成24年の保育所等訪問支援事業開始当初より、支援学校、地域小学校、保育所、幼稚園への訪問を実施しており、また他事業所で保育所等訪問支援を実施している事業所も少ないので、紀北地域においては当事業所の訪問支援事業の理解は浸透していると思われる。	訪問先関係者への事前聞き取りや必要時には事後フォロー一敏江電話連絡等関係づくりに努めている。	必要時には訪問先から当センターでの訓練場面の見学を促すようにしている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員と訪問先との日程調整に時間を要すること、直接支援、間接支援の日程調整が上手くいかない場合がある。	訪問支援員が通常業務との兼務の為調整がつきにくい	
2	対象の利用児にとって訪問支援員とは顔見知りであるため、普段の学校での様子が見れない。	当事業所のリハビリ受診している利用者のみ保育所等訪問を実施している為	
3			